

2021 年度 事業計画書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日

会員及び海外連携機関との協働を基本に、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を条件に、川づくりに関わる情報共有基盤の更なる強化、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援活動、また日本の川づくりの経験をアジアへ還元するための国際的な技術交流に取組み、川づくりの中間支援機能及びインキュベーターの役割を担ってまいります。

【1】 川づくりに関わる情報共有基盤整備

全国の川づくりに役立つ有益な情報を、会員及び海外連携機関の協力を得ながら集約し、それらをウェブサイトやソーシャルメディア（随時更新）、ニュースメール（毎週配信）、ニュースレター（毎月発行）等を通じて広く社会一般に発信し情報循環を図ります。また、「水辺の小さな自然再生」ウェブサイトや facebook の運営を通じて、水辺でできる小さな自然再生の事例や技術情報の普及にも取り組みます。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めます。



JRRN web
随時更新

JRRN facebook
随時更新

JRRN newsletter
毎月発行

ARRN web
不定期更新

小さな自然再生 web
不定期更新

※JRRN ウェブサイトからすべてにアクセスが可能：<http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN が運営・管理する主な情報媒体

【2】川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの担い手を増やし、技術の向上を図りながら地域に根ざした川づくりを展開していくためには、同じ問題意識を有する仲間が集う機会を創り、各地域の川づくりに資する情報や経験を共有しながら、活動への参加のハードルを下げていくことが重要と認識しています。そこで、川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を主催・共催するとともに、JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体が取り組む公益活動との協働及び支援を行います。

(1) 水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及 《河川基金助成事業》

「小さな自然再生」研究会の運営幹事として、研究会メンバーの協力を得ながら、水辺でできる「小さな自然再生」の普及促進に向けた交流行事の開催、座学及び現地実習で構成されるフィールドワークショップ等の現地研修行事を企画・開催します。また、全国の「小さな自然再生」に関わる先進的な取組や技術を収集整理し、「小さな自然再生ウェブサイト」を通じて全国に普及します。

(2) 川づくり団体との協働・支援

全国の川づくりの担い手との協働を通じて、川づくりを取り巻く現場の生の課題に向き合いながら、川づくりを取り巻く諸課題の克服に向けた新たなサービスや機能を創出します。

【3】川づくりの国際的な技術交流

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的とした『第 17 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』及び『第 15 回 ARRN 運営会議』に参加します。

また、川づくりに関わる海外政府機関や研究機関、市民団体等の来日視察団との技術交流支援や、海外で開催される国際行事での講演等を通じて、日本がこれまで培ってきた川づくりの経験・技術等をアジアに向けて普及します。

(過去の JRRN による来日視察団支援実績： 計 34 回)

2021 年度 収入・支出予算書

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日)

(収入)

<単位:円>

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①前年度繰越金	558,197	578,665	△ 20,468	
②助成金	990,000	990,000	0	河川基金助成事業
③寄付金	0	0	0	
④預金利息	10	10	0	
計	1,548,207	1,568,675	△ 20,468	

(支出)

<単位:円>

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①旅費・交通費	400,000	500,000	△ 100,000	助成事業出張費、学会等出張費
②通信・運搬費	0	0	0	
③資料・印刷費	0	30,000	△ 30,000	研修会資料等
④賃貸料	60,000	90,000	△ 30,000	研修会会場費等
⑤委託費	360,000	300,000	60,000	貸切バス借用代、アルバイト等
⑥諸謝金	120,000	90,000	30,000	研修会講師謝金等
⑦消耗品費	96,000	60,000	36,000	研修会備品、文具等
⑧来年度繰越金	512,207	498,675	13,532	
計	1,548,207	1,568,675	△ 20,468	

※上記は助成金及び寄付金等に関わる収支のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、公益財団法人リバーフロント研究所の自主研究「河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究」より支出する。